Japan Society of Educational Information

携帯情報端末・電子黒板を活用した討論学習の展開

－中学校社会科（公民的分野）における授業実践を通して－

奥村　信夫*1　　森　康夫*2

＜概要＞2014年11月６日・７日の２日間にわたり第47回全国中学校社会科教育研究大会（滋賀大会）が開催された。大会２日目（７日）には，守山市立守山南中学校において社会科３年（公民的分野）の授業を公開した。単元「くらしを支える地方自治」のなかで，タブレット端末（SHARP「10.1型手書き学習端末」）と電子黒板（SHARP「BIG PAD Campus」），リモコン型レスポンスアナライザ（内田洋行「EduClick HE」）を使って，グループ・学級討議を行い，討論の活性化を図ろうと試みた。本授業を通して，生徒がどのように積極的に討論し，生徒の思考が深まったのかを検証し，携帯情報端末や電子黒板を活用した授業の効果や課題等について考察を深める。
＜キーワード＞　授業分析，情報教育，教科教育，初等中等教育，アクティブラーニング

１.はじめに

守山市教育委員会では，2014年９月にＩＣＴ環境整備として，市内の13小中学校に42台，教育研究所に１台，計43台の60Ｖ型学校向けタッチディスプレイ「BIG PAD Campus」を導入した。同時に，各学校の規模に合わせて，タブレット端末（NEC「Versa Pro VZ 12.5型」）も２台～５台配置された。

一方，守山南中学校では，それ以前から独自にタブレット端末（SHARP「10.1型手書き学習端末」）を計画的に購入・整備し，社会科の授業を中心にグループ学習のまとめ・発表用のツールとして積極的にタブレット端末を活用してきた。

学習内容として地方自治，なかでも守山市が進めるまちづくり事業に焦点をあて，グラフやアンケート集計結果，画像などのデータを検証し，生徒および家族，近隣住民の生活体験・生活実感を手がかりに，生徒がグループ討論を通じて事業の評価から政策提言まで行うようにしていきたいと考えた。

２．単元の学習計画

（１）単元

「くらしを支える地方自治」－私たちのまちづくり～中心市街地活性化事業の通信簿～

（２）学習目標

地方自治のしくみや内容，現状を理解するとともに，守山市が進めているまちづくりの事業について調べ評価し，Ⅱ期計画への提言を行う。そのことにより，地方自治に関心を持ち，積極的に参加していこうという態度を養う。

（３）学習計画

時	学　習　内　容	主な学習項目
1	私たちのくらしと地方自治	くらしと地方自治，首長と地方議会の役割
2	地方公共団体の仕事と財政	県・市の仕事，守山市の財政支出と収入
3	地方自治と私たち	住民の権利，住民参加地方分権
4	私たちのまちづくり〈Ⅰ〉	基本計画策定時のデータ，基本計画の概要
5	私たちのまちづくり〈Ⅱ〉	フィールド調査，アンケート集計結果など
6	私たちのまちづくり〈Ⅲ〉	ゲストティーチャー（７人）への聴き取り
7	私たちのまちづくり〈Ⅳ〉	評価（レーダーチャート），新事業の立案
8	私たちのまちづくり〈Ⅴ〉	各班の評価・討論，新事業の決定・提案

（４）指導上の留意点

地方自治に関する基礎的な知識をもとにフィールドワークやアンケート調査，ゲストティーチャーの講話内容などの多様な情報を取捨選択し，中心市街地活性化事業の成果と課題を明らかにし，Ⅱ期の取り組みの重点と方向性について考察し，市に提言する。そのことを通して地方自治の担い手としての自覚を高める。

*1 Okumura, Nobuo ： 守山市教育委員会　e-mail= n_okumura_m@yahoo.co.jp

*2 Mori, Yasuo ： 守山市立守山南中学校　e-mail= yasuo1965@outlook.com

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

3．小単元の学習の流れ－3年3組での実践

単元の学習計画のうち，第4時～第8時を小単元「私たちのまちづくり」～中心市街地活性化事業の通信簿～とし，単元の中心課題に迫る学習過程と位置づけ，第8時（最終）では，全6班の提案のなかから学級として一つの事業に絞り，市への提言とした。

（1）第4時「私たちのまちづくり〈Ⅰ〉」

生徒は，電子黒板およびプリントにより提示した「人口」「人通り」「商業」に関連した3つの統計資料（データ）を読み取り，『守山市中心市街地活性化基本計画』（以下，「基本計画」と称す。）策定時（平成19年度）の中心市街地の状況をとらえ，当時の課題を把握した上で，「基本計画」策定時の担当職員から「基本計画」の概要（目的・現状・課題・具体的施策・予算・主体）に関する説明を聞き，「商業機能（商店街）の充実」「歴史資源（中山道守山宿）の活用」「生活環境（ホタル・水辺）の整備」の3つのテーマにそってワークシートにまとめていった。

図1 ゲストティーチャー（担当職員）による説明

（2）第5時「私たちのまちづくり〈Ⅱ〉」

初めに各テーマ2班となるように各班（6班）が，「商業機能（商店街）の充実」「歴史資源（中山道守山宿）の活用」「生活環境（ホタル・水辺）の整備」の3つの中から調査・検証するテーマを決定していった。

その後，各班は決定したテーマにそって事業の効果や課題等を検証していった。その際に，①統計資料（グラフ）や写真資料（画像），②フィールドワーク・聴き取り調査の結果（当事者・居住者および利用者の生活・仕事の実体験・実感），③アンケートの集計結果（中学生の実感・体験）の3つから検証することとした。

（3）第6時「私たちのまちづくり〈Ⅲ〉」

事業の当事者（担い手）である7人のゲストティーチャー（「事業全体」「商業機能」「生活環境」から各2人，「歴史資源」から1人）から聞き取り，事業内容を検証した。

図2 ゲストティーチャー（担い手）への聴き取り調査

生徒は，3つのテーマ（「商業機能」「歴史資源」「生活環境」）をいかした「まちづくり」を進めていくには，①どのような事業が必要であったのか（過去），②これまでに行われてきた事業がどのような影響を与え，どのような効果をもたらしたのか（現在），③今後はどのような取り組みが必要であるか（未来），以上の3点について聴き取り，事業に携わる人がどのような考えを持っているのか，各班ごとにまとめていった。

（4）第7時「私たちのまちづくり〈Ⅳ〉」

各班は，担当するテーマにそって「基本計画」に基づく事業について，根拠（データ）をもとに評価し，レーダーチャートにまとめタブレット端末の画面に入力していった。レーダーチャートの評価指標として，にぎわい（利用者数）売り上げ，居住者（利用者）の満足度・快適性・利便性，守山らしさの3つを設定した。

さらに，班ごとに評価（レーダーチャート）に即してこれまでに展開されてきた事業の成果と課題を整理し，協議・決定した新しい事業内容をタブレット端末の画面に入力した。

最後に，各班のレーダーチャートと新事業の内容をタブレット端末の画面で確認し，次時に各班が提案し，学級としての新事業を一つに絞り，市に提言していくことを予告した。

（5）第8時「私たちのまちづくり〈Ⅴ〉」

各班がこれまでに展開されてきた事業の評

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

価をもとに，新事業の提案内容を電子黒板に表示し，そのポイントを１分間でアピールした。各班が発表した６つの提案について，まず生徒一人ひとりが各班の提案について３つの項目ごとに評価し，各班はその個人評価を出し合い協議を深め，６つの提案のうち中心市街地の活性化にとって効果的であると思われるものを３つ選択・発表し，学級として３つに絞った。

その後，生徒一人ひとりが，自分たちがまとめた提言にとらわれずに，３つの提案のなかから最も効果があると思われるものを選択し，学級として市への提言として最終決定し，最後に市の担当課長から提言に対する評価等についてコメントしていただいた。

４．第８時（「私たちのまちづくり〈V〉」）

（１）学習目標

生徒一人ひとりが各班の提案を評価し，グループ・学級討議を通して，中心市街地の活性化にとって効果的であると思われる事業を学級で一つに絞り，市への提言としてまとめる。

（２）学習展開

段階	学習活動	教師の指導と支援・評価	教主題との関連
導入	1 前時の内容を確認し，本時の目標を知る。		
	守山市中心市街地活性化事業の新事業の提案の振り返り		
	・前時の事業評価と提案内容を確認する。	・前時に各班がつくったレーダーチャートと新提案を各班で確認させる。	
展開	2 守山市中心市街地活性化事業の新事業を提案する。		
	守山市中心市街地活性化事業の私たちの提案		つくる
	・それぞれの班が1分間スピーチを行い，自分たちの案をアピールする。	・個人評価シートに各班の提案を三段階で評価させる。	
	・各班で話し合い，6つの提案から3つを選択する。	◆班内で，これまでの調査活動を根拠に，自分の意見を発表することができる。	
	・各班が絞った3つの内容を確認する。	・タブレットで各班の内容を提示し，確認させる。	
	・学級として3つの提案を選択する。	◆効率と公正の視点から多面的，多角的に考察し，表現することができる。	
		・票数の多い上位3つを選択させる。	
		◆根拠を示し，新事業を提案することができる。	
	・3つの提案の中から一つに絞る。	・個人の意見をまとめさせて話し合わせる。	
		・対立した意見をまとめ，学級全体の意見をつくらせる。	
	守山市担当者による評価		
	・守山市担当者から評価に基づく新提言に対してのコメントを聞く。	◆担当者の評価を聞き，自分の考えをまとめることができる。	つながる
まとめ	3 学習のまとめをする。		
	「私と守山市」というテーマでまとめる		わかる
	・守山市の地方自治について今後自分はどうかかわっていくか考える。	◆これまでの学習をいかし，今後どのように守山市の政治にかかわっていくか表現することができる。	
		・自分の考えをプリントにまとめさせる。	

５．授業（第８時）のようす

生徒が，電子黒板・タブレット端末・レスポンスアナライザ等の情報機器を活用し，グループ・学級討論を通して，思考・判断を深めていったようすを詳述する。

（１）各班が考えた新事業を提案した

各班は，前時に考え作成した評価（レーダーチャート）と新事業の内容を画面に表示し，検証・評価に基づいて根拠を示して，１分間にまとめてアピールした。

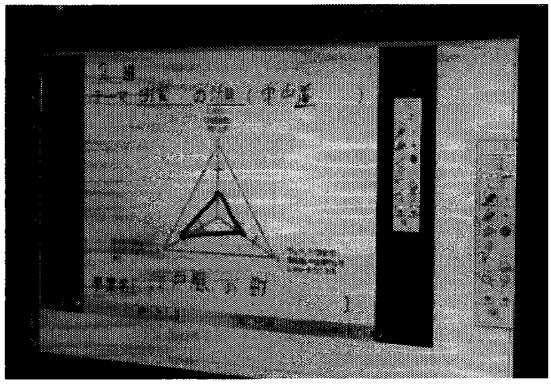

図3 2班が表示したレーダーチャートと新事業

一例として２班のアピールを紹介する。

私達は，うの家やにぎわい広場周辺の中山道にある町家を活かした「江戸風の町」を提案します。

江戸時代，宿場町として利用されていた頃を再現し復活させます。町家には伝統的工芸品をつくる体験ができる場や守山市の特産品を購入できる場をつくります。他にもにぎわい広場では，弓矢の体験など今ではなかなかできないことができます。また，「江戸風の町」を再現した区画では着物など当時の衣装を着ることができ，写真撮影ができます。

最近では，中山道ツアーや中山道めぐりをする人々が多く，その人々が施設を利用することにより町おこしにつながります。また，中学生が職場体験学習を行うなど，若い世代の人々の関心を高めることができます。また，守山らしさを取り入れ，ホタルを見ることができる池をつくります。現在失われつつある歴史資源を保存し，活用することで町おこしや人々が歴史に関心を持つことができます。

（２）個人の評価をもとに班で３つに絞った

初めに生徒に各班の提案を考える評価の観点を提示した。それは，①現実的で具体性のある事業なのか，②各班のテーマをいかした“守山らしさ”が組み込まれているか，③中学生としてどう関わることができるかという３点である。

その後，生徒一人ひとりが，全６班の提案について個人評価を行ったうえで，各班で協議・評価し，効果的であると思われる３つを挙げた。

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

各班の評価を集約し，学級として６つのうち評価の高かった提案を３つに絞った。

その３つは，１班「三津川河川公園ピカピカ作戦」（生活環境の整備），２班「江戸風の町」（歴史資源の活用），４班「セルバパワーアップ計画」（商業機能の充実）であった。

（３）個人が３つの提案から一つを選んだ

１班・２班・４班の代表が，それぞれ最後のアピールを行った後，学級で一つに絞り込み決定するために協議を深めた。各自の属する班の提案にとらわれずに，中心市街地を活性化させるために，最も効果的で具体的な手順を示している提案はどれか，延べ20人の生徒が発表した。

（４）個人が最終判断を下した

こうした学級討議を経て，生徒一人ひとりが３つの提案のうち，どれが最も有効なのか判断し，レスポンスアナライザを活用し，リモコンで投票した。

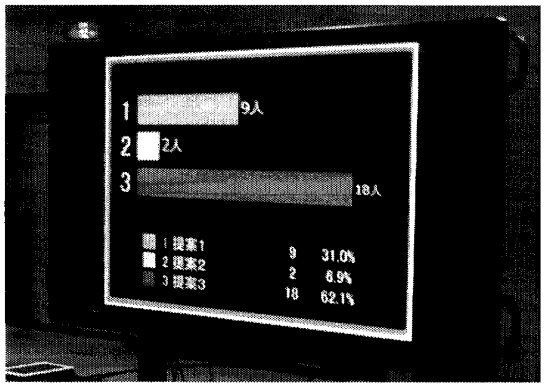

図4 電子黒板に表示された投票結果

その結果，４班「セルバパワーアップ計画」が29票のうち18票を集め，市への提言とすることになった。

（５）守山市担当課長のコメントを聞いた

担当課長が，今回の提言は一過性でなく継続性があり，駅前に注目していて，目のつけどころがよいと評価され，Ⅱ期計画に採用していきたいとコメントされた。

６．授業の分析と考察

（１）成果

①タブレット端末活用の効果

各班とも班の代表が，タブレット端末を通して電子黒板に新事業の根拠となる現状の評価とテーマ・事業名を表示し，新事業の内容について１分間でアピールした。

各班のアピールが終わった後，各班で３つの提案を選ぶ協議を進める上で参考となるように６つの提案のコンセプトを電子黒板に表示した。同様に，選ばれた３つの中から一つに絞る学級討議の際にも，３つの提案コンセプトを電子黒板に表示した。

生徒は，各提案に関する素朴な疑問を投げかけ，それに対して反論したり対案を示したりして，学級討議を深めることができた。

②レスポンスアナライザ活用の効果

生徒一人に１台のタブレット端末を用意できない現状において，生徒一人ひとりの意見を表明し学級の意見を集約していく上で，リモコン型レスポンスアナライザの活用は有効であった。１時間の授業のなかで学級全員の意見分布を把握し，提案を一つに絞ることができた。

（２）課題

①各提案に対する評価の観点の提示

全６班の提案から３つを選ぶグループ協議や３つの提案から一つに絞る学級討議にあたって，評価の観点を３つ提示していたが，実際はそれを踏まえた評価になっていなかった。

そこで，生徒が各班の提案を評価するにあたっては，

・提案のコンセプトがしっかりしているか
・根拠（データ）に基づいているか
・対象者（ターゲット）を意識しているか
・プランやそれを進める手順が明確であるか
・バックアッププランが準備できているか

以上の５点を事前に提示しておくと，協議が焦点化し，より深められたと思われる。

②タブレット端末・電子黒板の積極的な活用

各学校でタブレット端末を整備・充実させていくことと合わせて，教科研究会等で実践交流を進めて，教員の現有するタブレット端末・電子黒板の活用技能を向上させることが特に重要である。

生徒が，タブレット端末の操作に習熟すれば，よりインパクトのあるプレゼンテーションができるようになり，グループ・学級討議も活性化し，深まっていくであろう。

【参考文献】

奥村信夫（2012）「携帯情報端末を活用し，生徒の思考力・判断力・表現力を高める討論学習の工夫」滋賀大学教育学部教育実践総合センター紀要『パイデイア』Vol.20，pp.25-32.

NII-Electronic Library Service